

児童養護施設で働く職員がイメージする「ホッとできる」「やりがいを感じる」
—児童養護施設の住環境に関する研究—

○ 目白大学非常勤講師 杉本範子 (6831)

キーワード：児童養護施設、「ホッとできる」、「やりがいを感じる」

1. 研究目的

本研究は、職員が児童養護施設を自分の職場としてどのようにイメージしているかを明らかにし、職場としての施設の物理的環境の知見を得ることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

児童養護施設で働く職員の職場環境を取りあげたこれまでの研究は心理学や社会福祉学の分野での研究が主で、物理的環境要素を取りあげた研究はみられないのである。そこで、本研究は、職員が子ども達に良い援助をするためには自身が施設に愛着を感じ、やりがいを感じる必要があるという視点に立つものである。愛着・やりがいを感じる概念として「ホッとできる」、「やりがいを感じる」を取りあげ、職員にそれぞれの概念に対するイメージを撮影してもらい、その理由をコメントしてもらう形の郵送アンケートを全国の564の児童養護施設を対象に実施した。その後、そのうちの2施設を訪問し、追加の回答を得た。

3. 倫理的配慮

肯定・否定及び写真の公表は回答者の選択による。公表する場合は、写真の人物等が特定されないようにモザイク処理を行い、調査対象施設も特定されないように表記する。

4. 研究結果

4-1 回答者の属性

施設形態では大舎制 16 施設(51 人)、小舎制 12 施設(51 人)、テーマでは「ホッとできる」102(含コメントのみ 11)、「やりがいを感じる」99(含コメントのみ 15)の写真とコメントを収集した。職制では大舎の「管理職・指導員」は男性の割合が高く、「保育士」はすべて女性、「その他」も男性 1 人を除いて女性である。小舎の「管理職」は男性と女性の割合は 2 対 1、「指導員」の半分が女性で大舎とは異なっている。平均年齢では「管理職」の年齢が 50 代、その他の職員は 30・40 代であり、施設形態の違いがみられず、勤続年数は全体的にやや大舎の方が長かった。

4-2 「ホッとできる」のイメージ

1) 写真の結果：撮影された写真は、人が写っている写真53(全91に対する割合58.2%、大舎22、小舎31)と写っていない「物理的環境」(以下この中には「もの」を含む)38(同41.8%、大舎26、小舎12)に分けられる。否定的回答4(同4.4%、大舎3、小舎1)は皆「物理的環境」である。人の写っている写真は「子どもと職員」25(同27.4%、大舎11、小舎14)、「子どものみ」

19(同20.8%、大舎7、小舎12)、「職員のみ」9(同9.9%、大舎4、小舎5)である。大舎は「ホッとできる(できない)」を「物理的環境」の「場」で、小舎は「人」でイメージしている。職制別では「管理職」は施設形態に違いがなく「子どもと職員」の様子等を、その他の職制は、大舎が「物理的環境」を、小舎が「人」をイメージしている。

2) コメントの結果: 否定的コメント5(全102に対する割合4.9%、大舎4、小舎1)は「物理的環境」の不都合な面、例えばプライバシーがないなど、施設環境に対する指摘である。肯定的コメントは、大舎が「職員の行動」13(大舎回答数51に対する割合25.5%)、「子どもと一緒に」12(同23.5%)、「子どもの様子」8(同15.7%)の順で、小舎が「子どもの様子」19(小舎回答数全51に対する割合37.3%)、「職員の行動」17(同33.3%)、「子どもと一緒に」10(同19.6%)の順である。「その他」は他の職制とは異なり、職員自身の休憩に関することをイメージしている。

4-3 「やりがいを感じる」のイメージ

1) 写真の結果: 否定的回答は大舎のみ4(全84枚に対する割合4.8%)で、「物理的環境」を写している。肯定的回答中、人を写していた写真は56(同66.7%、大舎31、小舎25)で、その内訳は、「子どもと職員」32(同38.1%、大舎19、小舎13)、「子どものみ」20(同23.8%、大舎10、小舎10)、「職員のみ」2(同2.4%、大舎2)である。「物理的環境」は小舎2のみである。職制別にみると、小舎の「管理職」が唯一「人」より「物理的環境・自然」を対象にしている。その他の職制がほぼ子どもを対象にし、そこには施設形態の差がみられないのである。

2) コメントの結果: 「職員をつぶやき」5(同5.1%、大舎1、小舎4、写真なし)と「物理的環境」8(同8.1%、大舎7、小舎1)が否定的コメントである。肯定的コメントの内訳は、「子どもと一緒に・関わり」41(全99に対する割合41.4%、大舎21、小舎20)、「子どもの様子」36(同36.4%、大舎15、小舎21)、「行事」9(同9.1%、大舎4、小舎5)、「物理的環境」4である。

否定的コメントは、大舎が「物理的環境」の不都合の指摘、小舎が子ども達へのケアでの達成感のなさに関する「職員をつぶやき」である。肯定的コメントで施設形態の差はみられず、日常的な関わりの中での子ども達の成長や笑い顔に職員自身の達成感を重ねていることが伺える。職制では、「保育士」が他の職制とは異なり、「子どもと一緒に・関わり」13(全28人に対する割合46.4%)と「子どもの様子」12(同42.9%)をイメージしている。

5. 考察

職員の「ホッとできる」は、「居室」・「居間等の共用空間」(場)で「子どもとの関わり」、「子どもの様子」を見(行為)、また、職員自身の休息(行為)を子ども達の登校後の誰もいなくなった「居間・居室」での「一人」と子ども達の就寝後の静かな時の「一人」である。子ども達から離れ、自分の時間をもつことで「ホッとする」のである。「やりがいを感じる」は、大舎では「行事」(時)を利用して「子ども達への関わり」(行為)に、小舎では「いつでも」(時)子どもたちの居住空間(場)で「子ども達の様子」、「成長を見守る」(行為)である。

(謝礼) 調査にご協力くださった施設の職員と子ども達に感謝申し上げます。また、本調査は日本学術振興会平成23年度科学研究費補助金奨励研究第23920001による。